

何を発信するべきか
 情報発信の最たる目的は公園利用者や住民の安全を確保することです。発信する内容は大きく2つに分けられます。まず一つは人身事故につながりかねない危険・緊急情報を迅速、かつ正確に発信することです。分かりやすい例を挙げると、緊急地震速報のようなものです。二つ目がルールやマナーといった普及啓発の発信です。

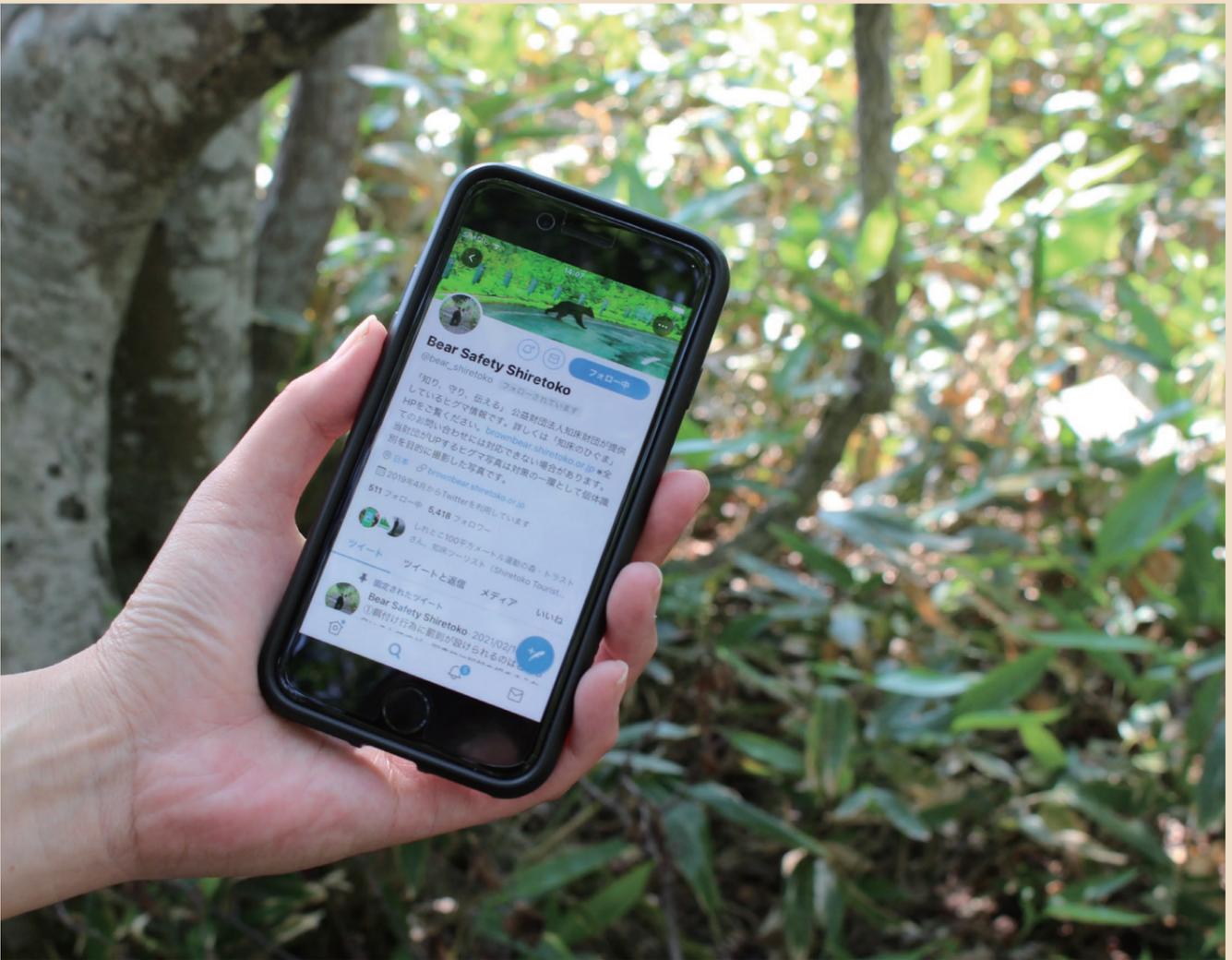
— SNS —

-  @ bear_shiretoko
-  @ bear_safety_shiretoko
-  @ BearSafetyShiretoko

— ホームページ —



<https://brownbear.shiretoko.or.jp/>
 最新の出没状況や対処法、生態などをご紹介しています。



Bear Safety Shiretoko @bear_shiretoko · 2020年8月20日
 8/20幌別川河口は継続して立ち入り禁止となっています。釣り・撮影などの目的で立ち入らないでください
 また、何度注意しても撮影目的でヒグマに接近する方がいますが、魚を奪ったヒグマは人と食べ物を関連付けて学習している可能性があります
 人身事故を防ぐため、絶対にヒグマに接近しないでください

Bear Safety Shiretoko @bear_shiretoko · 2020年8月5日
 【斜里町ウトロ町民の皆さまへ】
 7/31に幌別川河口でヒグマが釣り人の魚を奪いました。このヒグマは、人のそばに行けば楽に食べ物が入ると学習しており、積極的に人に近づくことがあります。見回りを強化していますが、幌別橋付近を徒歩や自転車で通過する際は、くれぐれもご注意ください。



緊急速報

事件が発生した直後に発信したツイート

Bear Safety Shiretoko @bear_shiretoko · 2020年8月20日
 登山道に一時残置した荷物をヒグマに物色される事案が8/18に発生しました。知床ではヒグマが高密度に生息しています。重い荷物を一時残置したい気持ちはとても分かりますが、荷物から目を離さないでください。ヒグマが荷物の食料に興味してしまうと、全ての人に危険が及びます。ご協力をお願いします。



緊急速報

登山者へ注意喚起するツイート

Bear Safety Shiretoko @bear_shiretoko · 2020年9月19日
 9月19日、岩尾別橋でクマ渋滞が発生しました。車を停めたり、大勢の人が集まれば、交通の支障になります。そして、無茶な駐車や停車は交通事故を引き起こす危険があります。

どうかお願いです。
 クマを見る前に、周りを見てください。



普及啓発

川にヒグマが現れ、渋滞が発生した際に発信したツイート

この他にも2020年は特に不法投棄ゴミの回収に追われました。ゴミ投棄は餌付けにつながる行為でもあります。クマ渋滞、エサやりは毎年知床で起きている問題であり、私たちが立ち向かわなければいけない課題です。

SNSとクマ対策

活動レポート

文 | 田中優子 普及企画係

ここ数年はTwitterやInstagramなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が急速に普及し、「〇〇でクマを見た!」といったリアルタイムな投稿によって、クマを見た人がその場に集まるというケースが珍しくなくなってきました。投稿がバズる（話題となる）ことで現場に人が集中し、車渋滞や人身事故などが起こる可能性を高めてしまっています。また間違った事実、情報が拡散してしまうという危険もはらんでいます。さらに、クマ出没の投稿だけがひとり歩きし、『運転中に出会っても車から降りない、近づき過ぎない、エサをあげない』などのルールやマナーが置き去りにされていることも現状です。

このような環境の変化を受けて、私たちは2018年にヒグマの生態やマナー、ルールの普及に特化した「知床のひぐま」というホームページを立ち上げました。さらにここ数年は、TwitterやInstagramなどのSNSによる情報発信にも力を入れています。

クマ対策チームが主に利用しているSNSはTwitterです。Twitterの強味は「拡散力」です。投稿をフォロワーがリツイートすることにより、さらに多くの方の目にふれることとなります。前述のようなSNSのデメリットや危険性をきちんと理解した上で、そのメリットを活かしたクマ対策活動についてご紹介いたします。

SNSの有用性

SNSが普及する以前は、啓発チラシを施設や地域各所に掲示したり、ホームページのブログに投稿するだけに留まっていた。しかしここ数年で急速に普及したSNSをうまく活用することで、SNSユーザーを起点に、より多くの方に向けて知床で今起っていること、私たちの思いや考えを直に届けることができるようになりまし

た。
クマ対策チームのTwitterとInstagramはその



5,392
フォロワー



1,054
フォロワー

(2021年7月22日現在)

れぞれ2019年4月に開設されました。Twitterの

フォロワー数は、2019年10月で約2700、現在では約5300に伸びました。また、Instagramについては2019年10月で約760、現在では約1050のフォロワー数になりました。

また、投稿に対するコメントから世の中の人々がヒグマに対してどのような意識を持っているのか、どのように世論を醸成していくべきなのかを掴むきっかけにもなります。

知ることで防げることがある

クマ対策には人身事故を防ぐための現地での対応、農業被害を防ぐための電気柵の設置など幅広くありますが、その一つに「ヒグマの正しい知識を普及すること」も重要な対策活動の一

つとして位置付けられています。

人とヒグマの軋轢をなくすためにはまずは私たち人間がヒグマのことを正しく理解し、「近づかない」「餌付けしない」「ゴミを捨てない」といった基本的なマナーやルールを遵守することが大切です。クマ対策とはつまり、ところどころであり、普及啓発により人の意識や行動を正しく導くことが軋轢軽減に繋がります。

これまで知床では観光客とヒグマの人身事故は起こっていません。しかしSNSでの発信に力を入れている今も、人慣れたヒグマが観光客の車に近づき手をかけたり、逆に人の方が路上に出没したヒグマを撮ろうと車から降りて近づくと、いつ事故が起こってもおかしくない事例が減ることなく散見されています。これまで以上に人身事

故を未然に防ぐための情報を正確かつ迅速に届けること、そしてルールやマナーの普及が求められます。

知ること、そして知らせること、防げることがあるという思いを胸に、これからもSNSツールを使った情報発信に力を入れていきたいと思えます。



知床財団 活動日記

この春から夏にかけて様々な事業を実施しました。その一部を皆様にご紹介します。

オジロワシの繁殖状況調査

《3〜7月》

知床には希少鳥類のオジロワシが40つがいほど生息しています。毎年、3月から7月にかけて地元有志や研究者と協力して、これらオジロワシの繁殖状況調査を行っています。この日は巢内に1羽の元気なヒナを確認できました。

繁殖期のオジロワシは通常よりも周囲の変化に敏感になるため、人が不用意に近づくと、巣の利用を諦めてしまったり、子育てをやめてしまうなど、繁殖の失敗に繋



※知床財団は「オジロワシ長期モニタリング調査グループ(2004年〜)」の事務局と調査を担当しています。

がってしまう恐れがあります。そのため、調査を行う際には注意深く、遠く離れた場所から、双眼鏡やフィールドスコープを使って静かに巣の観察を行います。調査で得られたデータは、知床のオジロワシにとって変わらぬ生息環境が保たれているか、モニタリングしていくために活用されています。



キクイムシ調査

《5〜10月》

多様性のある森づくりを進める過程では間伐材が発生します。間伐材を堆積している場所ではキクイムシが大量に発生する可能性があるため、横浜国立大学の協力のもと、虫を捕獲するトラップを設置し、間伐材がキクイムシを誘引していないか調査しています。このように、私たちは自然の反応を観察しながら慎重に森づくりを進めています。

知床岳の巡視

《6月初旬》

知床半島先端部地区に位置する知床岳の巡視を行いました。知床岳にはいわゆる登山道がなく、地図とコンパスを駆使して自分の歩く場所を探さなければなりません。行程は2泊3日で、1日の行動時間は約10〜12時間に及びます。巡視では、ルート上に土砂崩れや崩壊跡がないか、野生生物についての自然情報収集、焚き火跡やゴミなどの不法投棄の確認を中心に行いました。今回得た情報は、今後知床岳登頂を目指す人への情報提供に活かされます。

